

定期報告徴収により取得した情報の報告

平成28年11月25日（金）



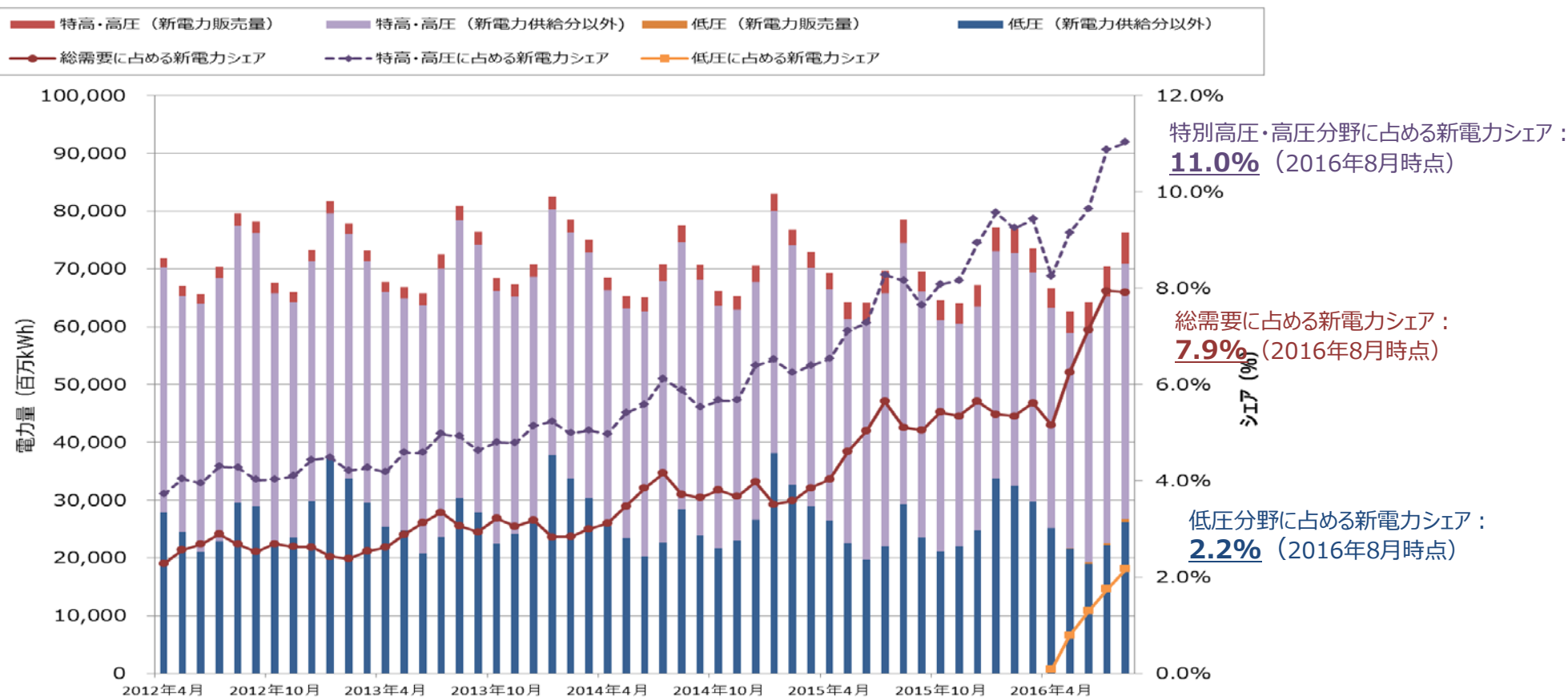
電力・ガス取引監視等委員会
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

新電力の市場シェア

小売取引

- 新電力の販売電力量シェアは特高・高圧分野で11%に達した。2016年8月時点において、特高・高圧分野における新電力シェアは約11.0%（前月：約10.9%）、低圧分野に占める新電力シェアは2.2%（前月：約1.8%）、総需要に占める新電力の市場シェアは約7.9%（前月：約7.9%）となっている。

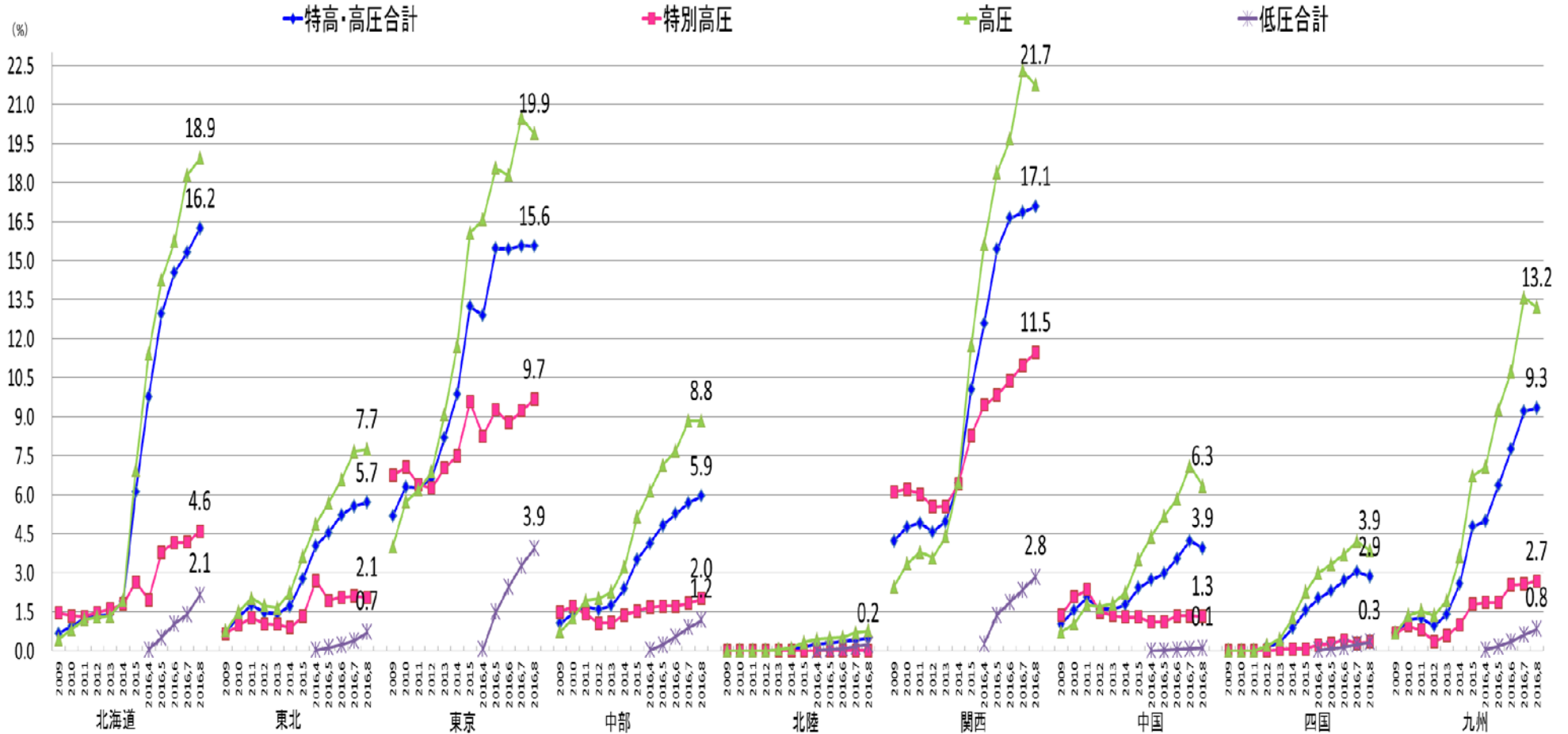
新電力の市場シェア（2012年4月～2016年8月）



地域別の新電力シェア

小売取引

- 地域別の新電力シェアは、特高や低圧分野では、前月と比較して全ての地域で増加傾向にあるが、高圧分野では減少する地域が多い。新電力シェアは、関西、東京、北海道で高い傾向にある。

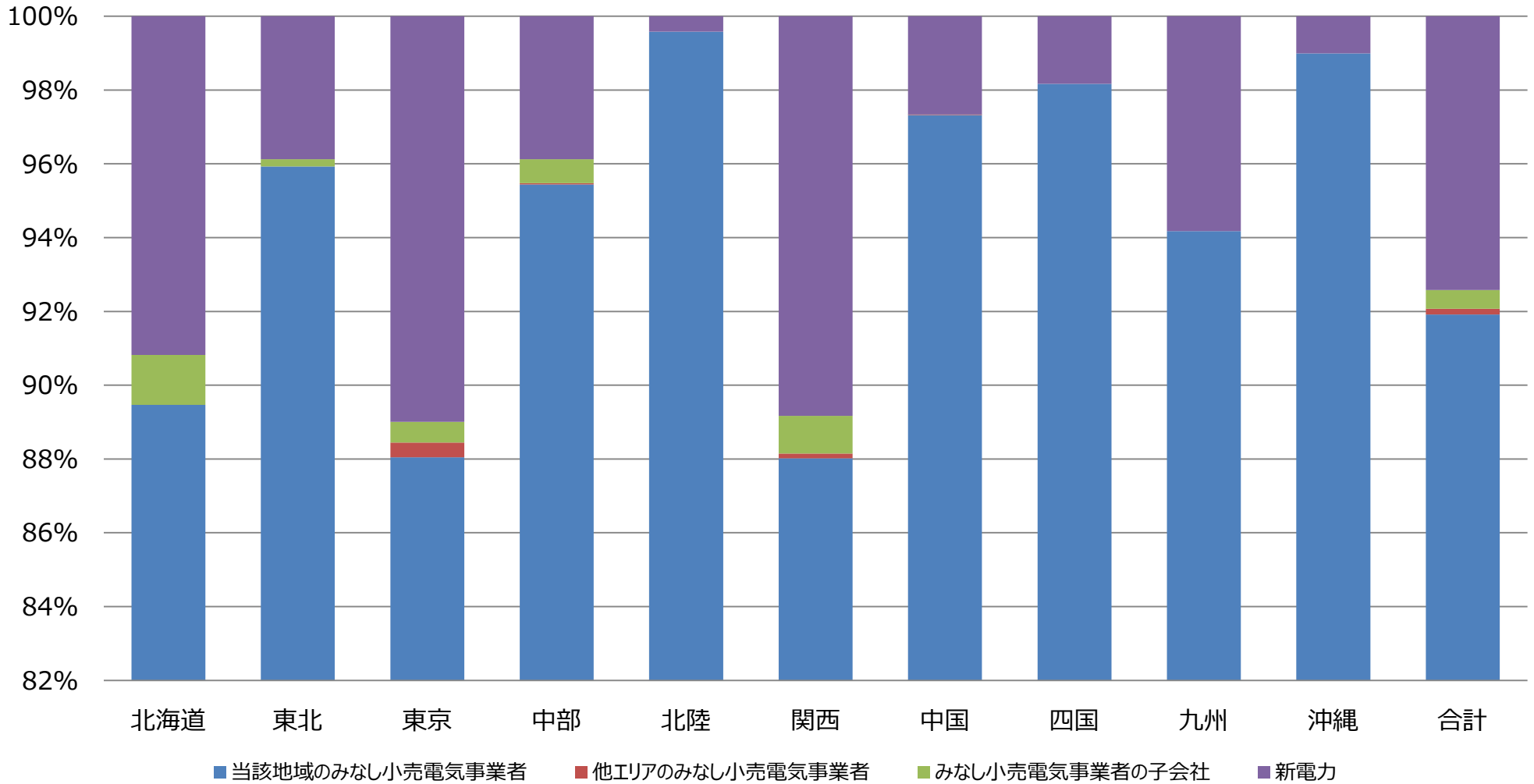


(出所：電力調査統計、定期報告徴収データより事務局作成)

地域毎の事業者別シェア（全電圧）

小売取引

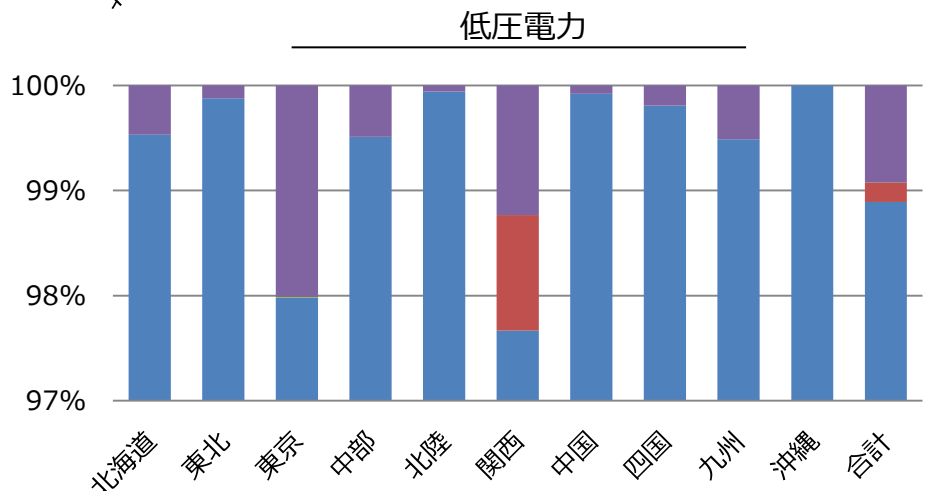
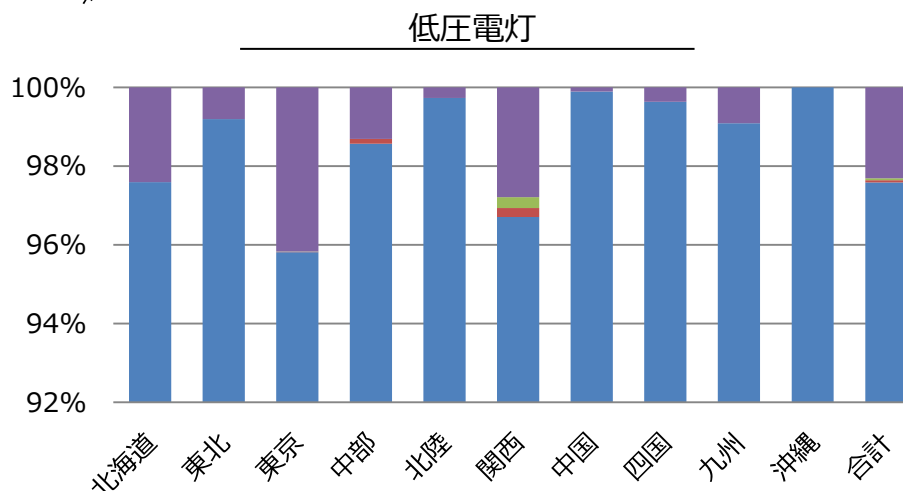
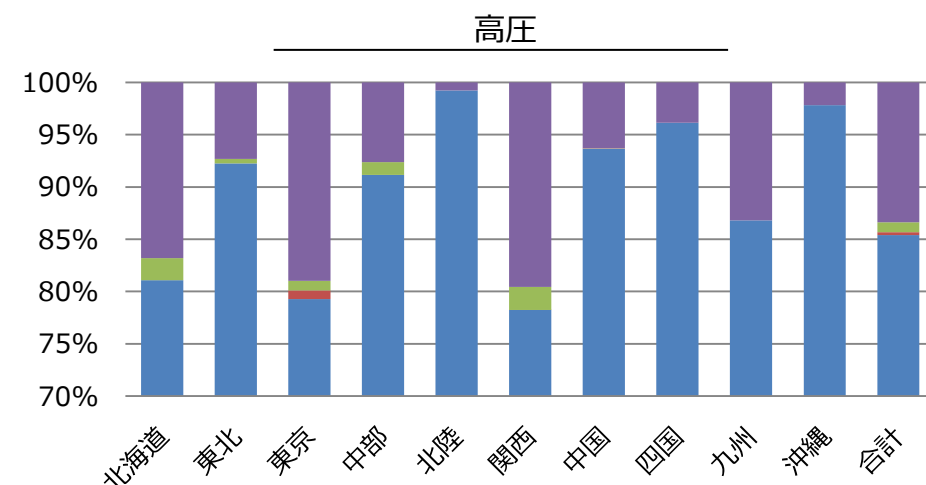
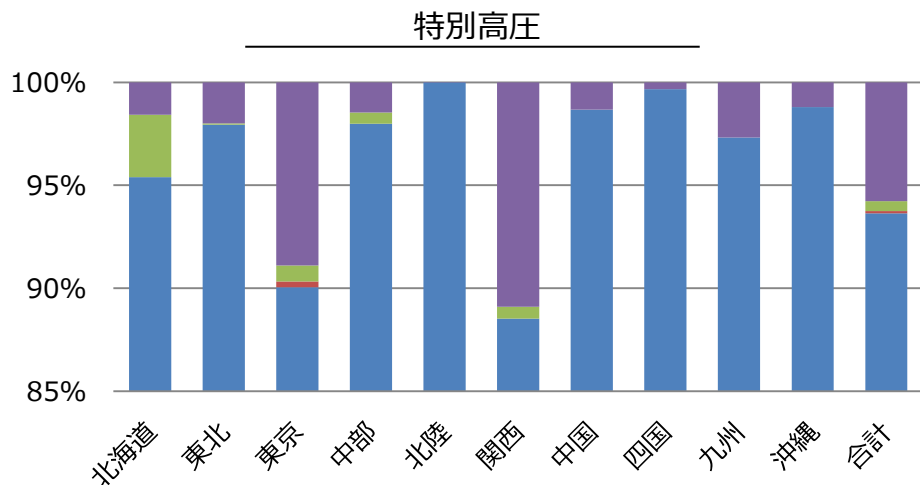
● みなし小売電気事業者及びその子会社による旧供給区域外への進出は進んでおらず、旧供給区域外への供給は全体の約0.7%（前月約0.6%）。地域別では、北海道（約1.3%）、東北（約0.2%）、東京（約1.0%）、中部（約0.7%）、関西（約1.1%）、中国（約0.02%）で域外供給が発生している。



地域毎の事業者別シェア（電圧別）

小売取引

● 特高・高圧分野では、北海道や関西、東京を中心にみなし小売電気事業者やその子会社による域外供給が行われている。低圧分野では、先月と比較して、関西地域において、低圧電灯約0.5%(昨月約0.4%)、低圧電力約1.1%(昨月約0.1%)とエリア外供給が大幅に増加している。



■ 当該地域のみなし小売電気事業者 ■ 他地域のみなし小売電気事業者
 ■ みなし小売系新電力 ■ 新電力

【参考 1】平成28年 8 月の新電力の販売電力量シェア（全電圧）

小売取引

- トップ20社の顔ぶれに変動はないが、東京ガス株式会社が先月と比較して大きく順位を上昇させている。なお、東京ガスは全国の新電力の低圧需要の約32.5%を確保している。

順位	事業者名	販売電力量(MWh単位)	新電力シェア
1(1)	株式会社エネット	1,238,025	20%
2(2)	株式会社 F-Power	797,615	13%
3(3)	丸紅新電力	399,935	7%
4(4)	J Xエネルギー株式会社	303,805	5%
5(5)	オリックス株式会社	231,155	4%
6(10)	東京ガス株式会社	183,597	3%
7(6)	サミットエナジー株式会社	183,375	3%
8(7)	テプコカスタマーサービス	181,940	3%
9(8)	日本テクノ株式会社	166,080	3%
10(11)	伊藤忠エネクス株式会社	137,296	2%
11(9)	新日鉄住金エンジニアリング(株)	136,213	2%
12(12)	イーレックス株式会社	127,364	2%
13(13)	ミツロコグリーンエネルギー株式会社	117,414	2%
14(14)	ダイヤモンドパワー株式会社	112,816	2%
15(15)	エネサーブ株式会社	109,929	2%
16(17)	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	105,259	2%
17(18)	株式会社エナリス・パワー・マーケティング	92,987	2%
18(16)	昭和シェル石油株式会社	91,523	1%
19(19)	大阪瓦斯株式会社	82,950	1%
20(20)	大和ハウス工業株式会社	60,608	1%
新電力上位20社 合計		4,859,886	79%
新電力 合計		6,141,467	-

(出所：電力調査統計、定期報告徴収データより事務局作成)

平成28年8月の新電力の販売電力量シェア（電圧別）

小売取引

順位	特別高圧	高圧	低圧
1	株式会社エネット	株式会社エネット	東京ガス株式会社
2	株式会社 F-Power	株式会社 F-Power	大阪瓦斯株式会社
3	丸紅新電力	丸紅新電力	KDDI株式会社
4	JXエネルギー株式会社	オリックス株式会社	JXエネルギー株式会社
5	新日鉄住金エンジニアリング(株)	日本テクノ株式会社	株式会社サイサン
6	サミットエナジー株式会社	テプコカスタマーサービス	株式会社東急パワーサプライ
7	ダイヤモンドパワー株式会社	JXエネルギー株式会社	株式会社ジェイコムウエスト
8	テプコカスタマーサービス	サミットエナジー株式会社	株式会社ケイ・オプティコム
9	株式会社シナジアパワー	伊藤忠エネクス株式会社	SBパワー株式会社
10	キャノンマーケティングジャパン株式会社	イーレックス株式会社	東燃ゼネラル石油株式会社
11	エネサーブ株式会社	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	大阪いずみ市民生活協同組合
12	アーバンエナジー株式会社	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	北海道瓦斯株式会社
13	パナソニック株式会社	エネサーブ株式会社	サミットエナジー株式会社
14	昭和シェル石油株式会社	株式会社エナリス	大東エナジー株式会社
15	凸版印刷株式会社	昭和シェル石油株式会社	株式会社Loop
16	株式会社グローバルエンジニアリング	ダイヤモンドパワー株式会社	株式会社ジェイコムイースト
17	出光グリーンパワー株式会社	新日鉄住金エンジニアリング(株)	イーレックス・スパーク・マーケティング株式会社
18	株式会社NTTファシリティーズ	大和ハウス工業株式会社	静岡ガス&パワー株式会社
19	伊藤忠エネクス株式会社	株式会社洸陽電機	イーレックス・スパーク・エリアマーケティング株式会社
20	株式会社エナリス	株式会社グローバルエンジニアリング	株式会社ミツウロコ

卸電力取引所取引のサマリー（2016年10月）

卸電力取引所取引

- 2016年10月の卸電力取引所取引のサマリーは、次のとおり（括弧内は前年同時期の値）。

		対象期間	参考（過去3ヶ月）		
		2016年10月	2016年9月	2016年8月	2016年7月
JEPX取引会員数※1		114社	114社	114社	115社
スポット市場	売り入札量	90億kWh (70億kWh)	91億kWh (92億kWh)	88億kWh (89億kWh)	90億kWh (94億kWh)
	買い入札量	51億kWh (33億kWh)	49億kWh (27億kWh)	53億kWh (34億kWh)	49億kWh (31億kWh)
	約定量	18億kWh (13億kWh)	19億kWh (12億kWh)	20億kWh (14億kWh)	19億kWh (15億kWh)
	平均約定価格 (システムプライス)	7.61円/kWh (9.46円/kWh)	7.92円/kWh (8.23円/kWh)	8.68円/kWh (11.28円/kWh)	8.12円/kWh (11.22円/kWh)
	東西市場分断発生率	53.2% (79.0%)	78.1% (97.0%)	65.7% (62.2%)	66.1% (49.1%)
時間前市場※2	約定量	1.1億kWh	1.5億kWh	1.6億kWh	1.5億kWh
先渡市場	約定量、約定件数	0.07億kWh、13件 (0.00億kWh、0件)	0.05億kWh、14件 (0.00億kWh、0件)	0.13億kWh、34件 (0.51億kWh、9件)	0.08億kWh、18件 (0.03億kWh、8件)

※1 9月30日をもって豊通ニューエナジー株式会社 が脱退。10月24日に清水建設株式会社が加入。

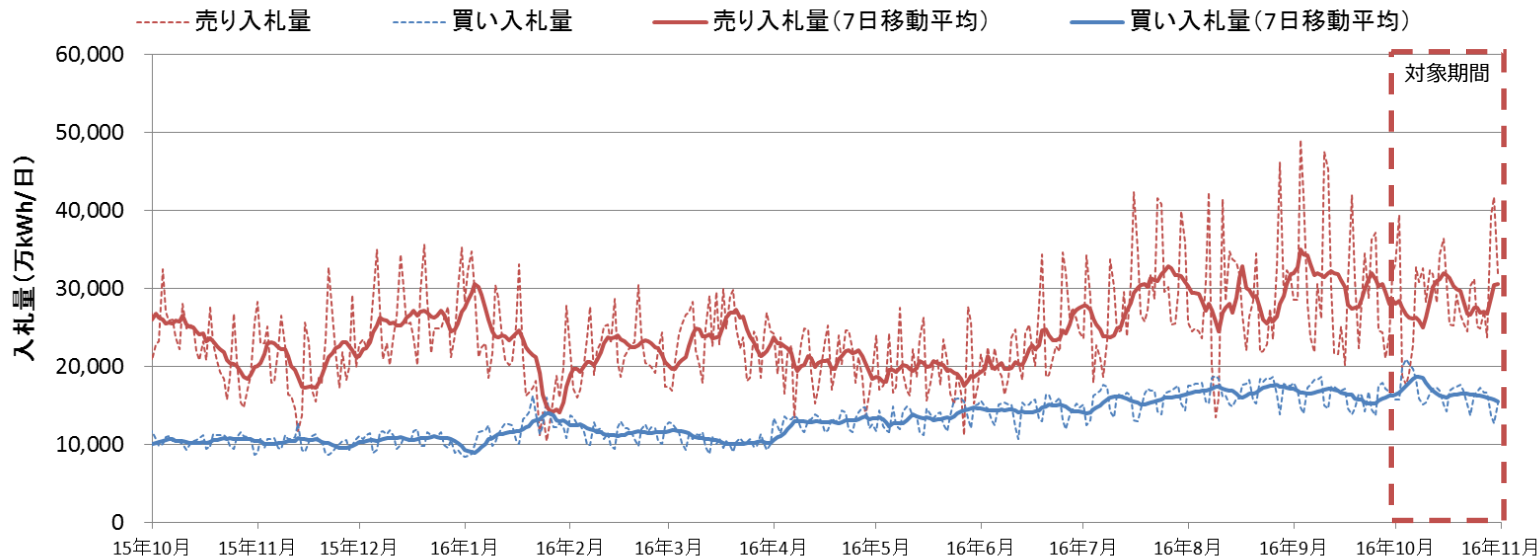
※2 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、昨年同時期の値は掲載していない。

スポット市場の入札量

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるスポット市場の入札量は、売り入札量90億kWh、買い入札量51億kWhであった。
- 売り入札量は9月（91億kWh）と比べて減少した。他方、買い入札量は9月（49億kWh）と比べて増加した。
- 前年同時期対比は、売り入札量は1.3倍、買い入札量は1.6倍となっている。

スポット市場 入札量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

売り入札量
(2016年10月)
90 億kWh

売り入札量の前年同時期対比
(対2015年10月)
1.3 倍

買い入札量
(2016年10月)
51 億kWh

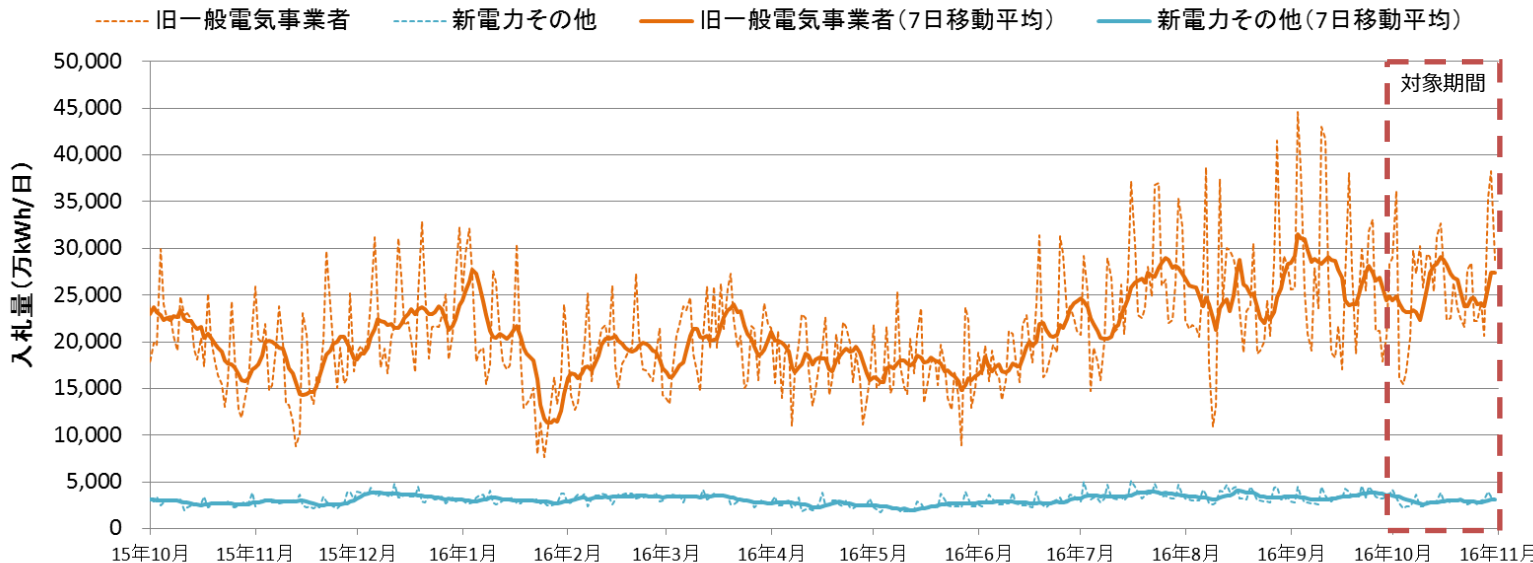
買い入札量の前年同時期対比
(対2015年10月)
1.6 倍

事業者区分別のスポット市場売り入札量

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるスポット市場の売り入札量は、旧一般電気事業者は81億kWh、新電力その他の事業者は9億kWhであった。
- 旧一般電気事業者による売り入札量は9月（80億kWh）と比べて増加している一方で、新電力による売り入札量は9月（10億kWh）と比べて減少しており、以前から引き続いて、スポット市場の売り入札量の大部分が旧一般電気事業者によるものとなっている（全体の90%）。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は1.3倍、新電力その他の事業者は1.1倍となっている。

スポット市場 売り入札量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

旧一般電気事業者による
売り入札量
(2016年10月)
81 億kWh

旧一般電気事業者による
売り入札量の前年同時期対比
(対2015年10月)
1.3 倍

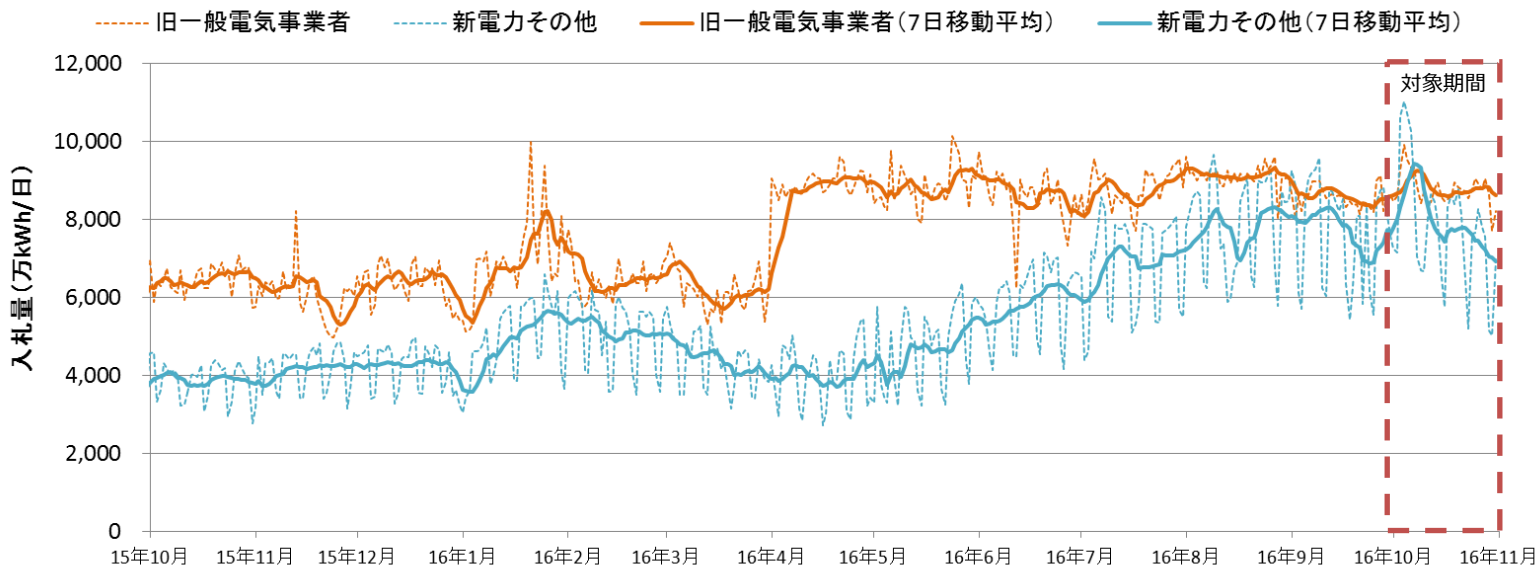
新電力その他の事業者による
売り入札量
(2016年10月)
9 億kWh

新電力その他の事業者による
売り入札量の前年同時期対比
(対2015年10月)
1.1 倍

事業者区分別のスポット市場買い入札量

- 2016年10月におけるスポット市場の買い入札量は、旧一般電気事業者は27億kWh、新電力その他の事業者は24億kWhであった。
- 旧一般電気事業者による買い入札量は、9月（26億kWh）と比べて増加した。また、新電力その他の事業者による買い入札量についても、9月（23億kWh）と比べて増加しており、10月上旬においては、一時期に旧一般電気事業者による買い入札量を上回る時もあった。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は1.4倍、新電力その他の事業者は2.0倍となっている。

スポット市場 買い入札量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

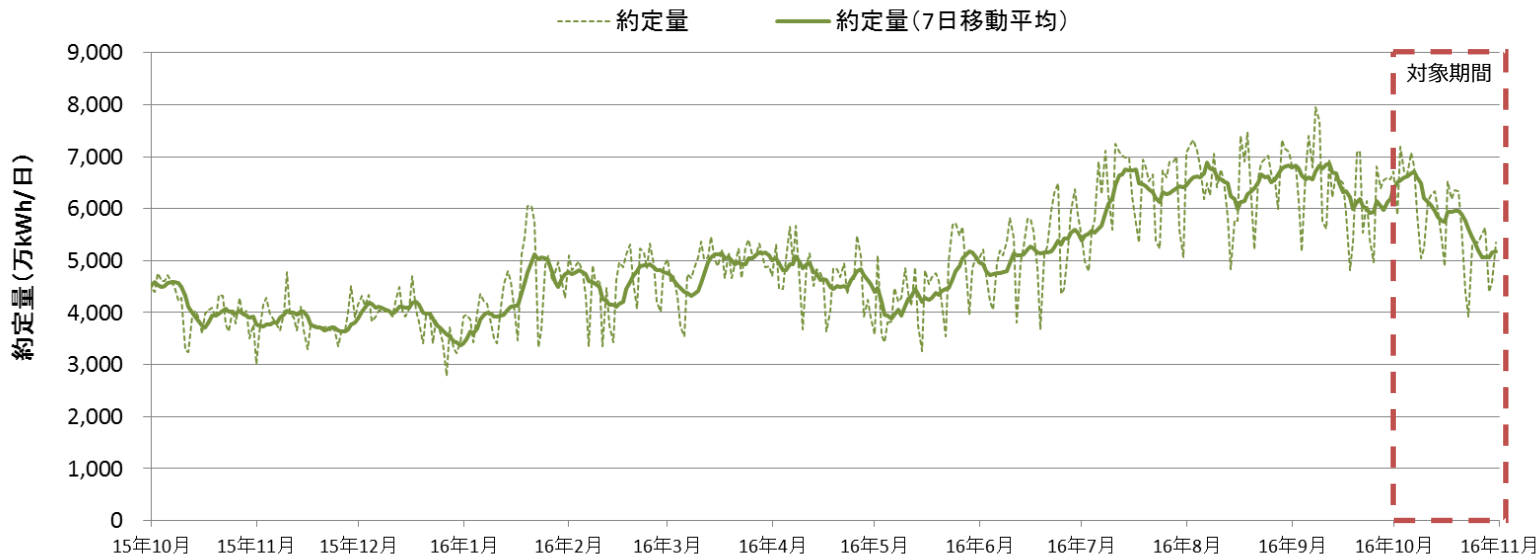
旧一般電気事業者による 買い入札量 (2016年10月)	27 億kWh
旧一般電気事業者による 買い入札量の前年同時期対比 (対2015年10月)	1.4 倍
新電力その他の事業者による 買い入札量 (2016年10月)	24 億kWh
新電力その他の事業者による 買い入札量の前年同時期対比 (対2015年10月)	2.0 倍

スポット市場の約定量

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるスポット市場の約定量の合計は18億kWhであった。
- 約定量は10月に入って減少傾向にあり、9月の約定量（19億kWh）に比べて減少した。
- 前年同時期対比は1.4倍となっている。

スポット市場 約定量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

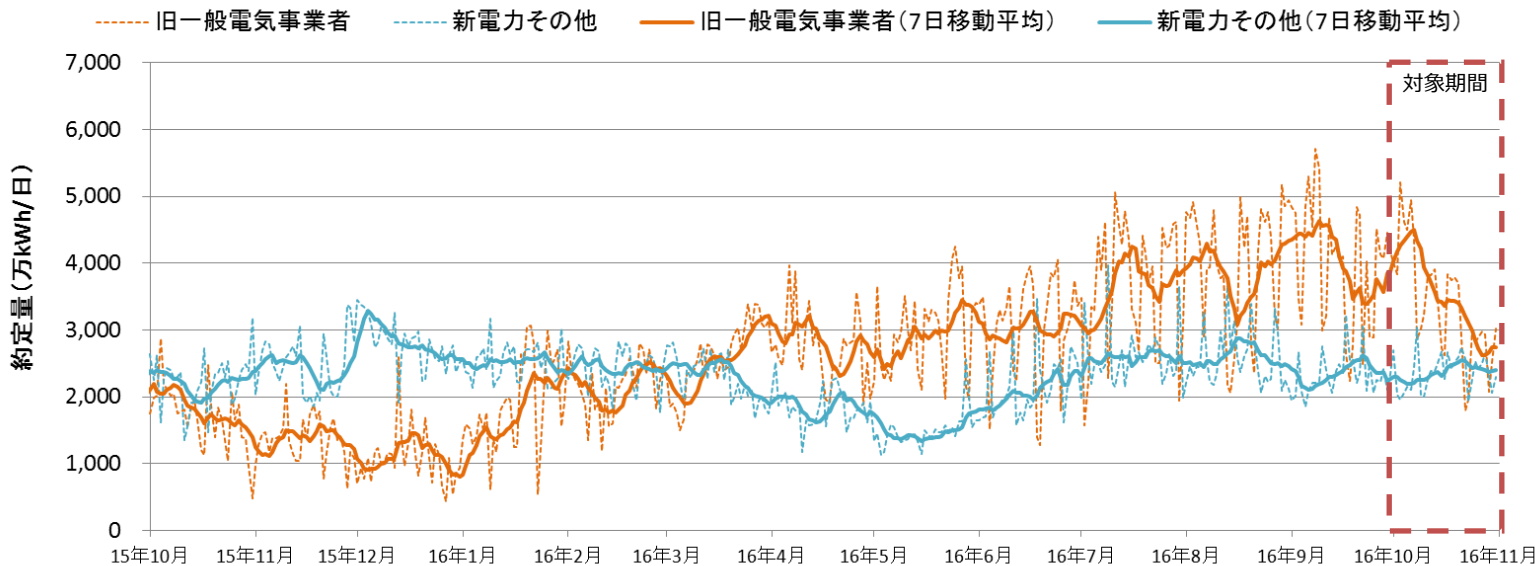
約定量 (2016年10月)
18 億kWh
約定量の前年同時期対比 (対2015年10月)
1.4 倍

事業者区分別のスポット市場売り約定量

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるスポット市場の売り約定量は、旧一般電気事業者は10億kWh、新電力その他の事業者は7億kWhであった。
- 10月に入り、旧一般電気事業者による売り約定量が減少した。他方、新電力その他の事業者による売り約定量は横ばいに推移しており、その差が縮まった。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は2.0倍、新電力その他の事業者は1.1倍となっている。

スポット市場 売り約定量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

旧一般電気事業者による
売り約定量
(2016年10月)
10 億kWh

旧一般電気事業者による
売り約定量の前年同時期対比
(対2015年10月)
2.0 倍

新電力その他の事業者による
売り約定量
(2016年10月)
7 億kWh

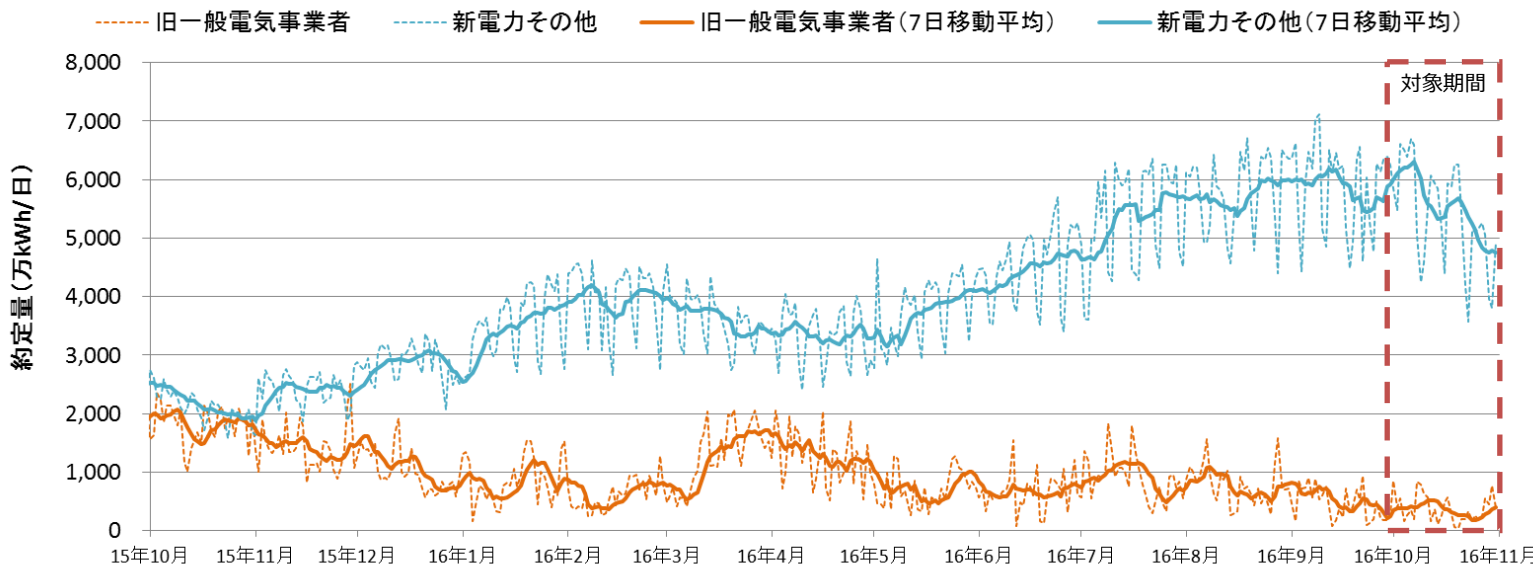
新電力その他の事業者による
売り約定量の前年同時期対比
(対2015年10月)
1.1 倍

事業者区分別のスポット市場買い約定量

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるスポット市場の買い約定量は、旧一般電気事業者は1億kWh、新電力その他の事業者は17億kWhであった。
- 10月に入り、新電力その他の事業者による買い約定量が減少した。他方、旧一般電気事業者による買い約定量はほぼ横ばいに推移した。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は0.2倍、新電力その他の事業者は2.5倍となっている。

スポット市場 買い約定量の推移
(2015年10月1日～2016年10月31日)



主要データ

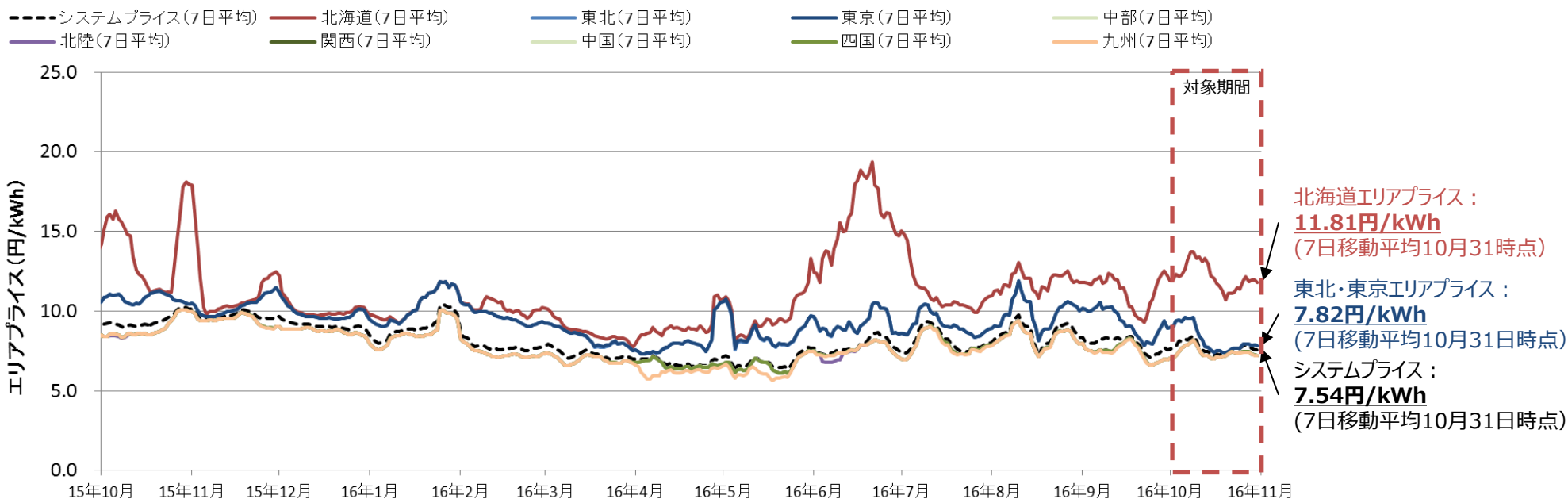
旧一般電気事業者による 買い約定量 (2016年10月)	1 億kWh
旧一般電気事業者による 買い約定量の前年同時期対比 (対2015年10月)	0.2 倍
新電力その他の事業者による 買い約定量 (2016年10月)	17 億kWh
新電力その他の事業者による 買い約定量の前年同時期対比 (対2015年10月)	2.5 倍

スポット市場のエリアプライス

卸電力取引所取引

- 2016年10月におけるエリアプライス（7日移動平均）の推移を見ると、北海道のエリアプライスは、先月から引き続いて、システムプライスとの値差が生じており、10月末の時点で11.81円/kWhとなっている。他方、東北・東京のエリアプライスは、10月中旬よりシステムプライスとの値差が小さくなっており、10月末の時点で7.82円/kWhとなっている。

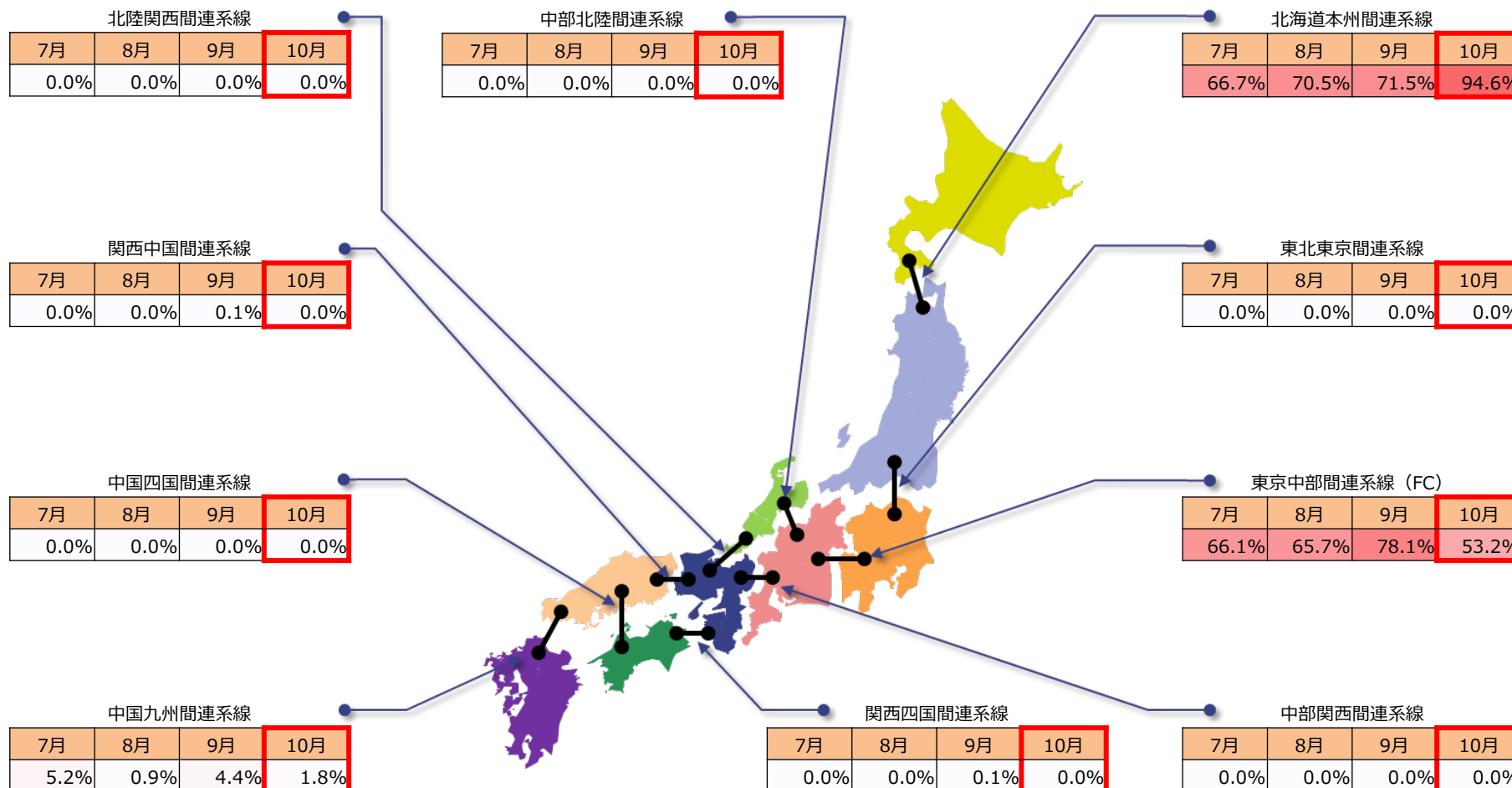
スポット市場 エリアプライスの推移 (2015年10月1日～2016年10月31日)



各地域間のスポット市場分断状況

- 各地域の市場分断状況を見ると、2016年10月においては、北海道本州間連系線は94.6%、東京中部間連系線は53.2%の頻度で分断が発生した。

各地域間連系線の月別分断発生率



※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。

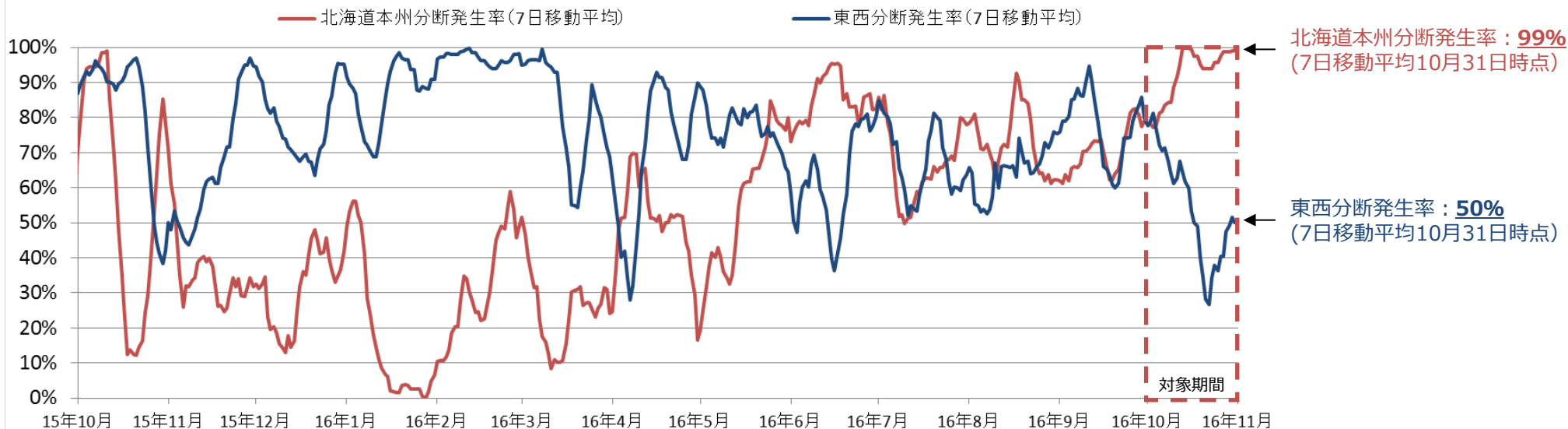
※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

北海道本州及び東西の市場分断発生率

卸電力取引所取引

- 北海道本州及び東西の市場分断発生率（7日移動平均）を見ると、2016年10月においては、北海道本州の市場分断発生率（下図の赤線）は増加傾向にあり、10月末の分断発生率は99%であった。他方、東西の市場分断発生率（下図の青線）は、中旬までは減少傾向にあったものの、下旬に増加し、10月末の分断発生率は50%であった。

北海道本州及び東西の市場分断発生率の推移 (2015年10月1日～2016年10月31日)



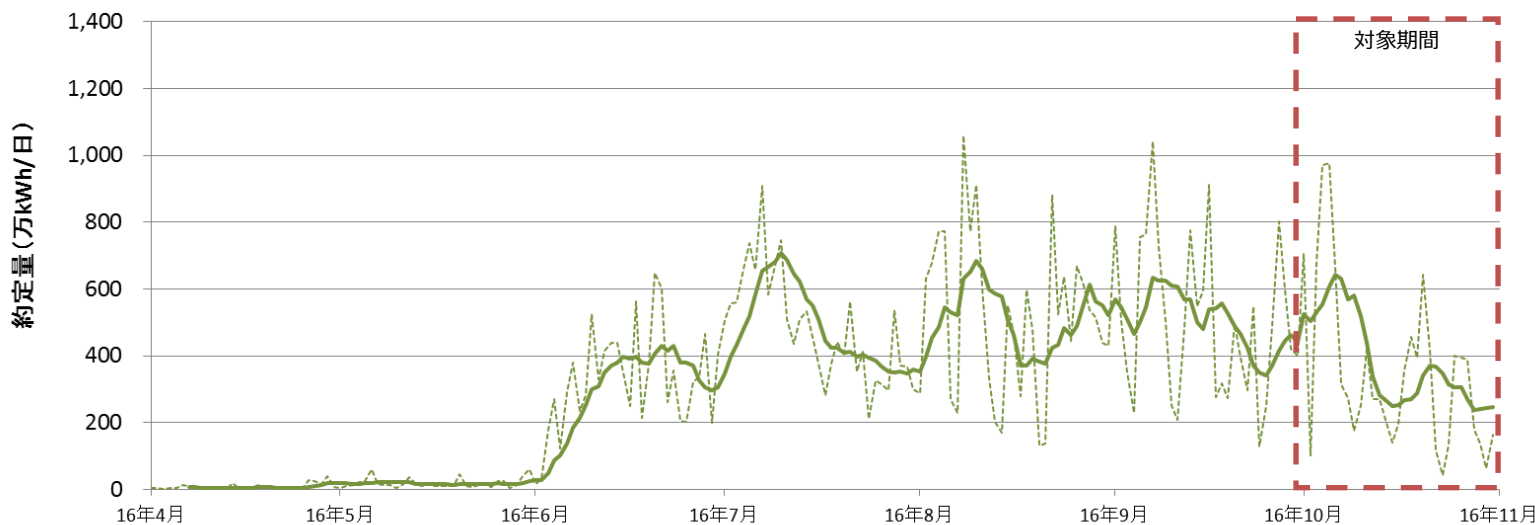
※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。
※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

時間前市場の約定量

- 2016年10月における時間前市場の約定量の合計は1.1億kWhであった。
- 2016年10月においては約定量は減少傾向にあり、9月の約定量（1.5億kWh）に比べて減少した。

時間前市場 約定量の推移
(2016年4月1日～2016年10月31日)

----- 約定量 ———— 約定量(7日移動平均)



主要データ

約定量 (2016年10月)
1.1 億kWh

※ 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、2016年3月以前のグラフ及び前年同時期対比の値は掲載していない。